



東京スカイツリー

浅野 純次

(経済倶楽部理事長)

▼あの日から一年が経ちました。新聞雑誌書籍テレビにネット、あらゆるメディアで玉石混交の情報や論評がなされ食傷気味の方も多いいでしょう。私も言いたいことが多々ありますが、今日は封印することに、と思いましたが、とはいえやはりちょっとだけ。

▼一つは総論賛成、各論反対という例の話で、自分にかかわらないことには正義をふりかざす人たちが、身辺にかかわるとなるとエゴまるだし(といてもたいていは気づいていない)になる傾向がまるで収まらないのはどうにも腹が立ちます。瓦れきの搬入拒否も

そうだし、東北の物産忌避もそうだし、あえて言えばおカネを一回出して後は自分の平安だけという感覚もそうかもしれない。

▼もう一つ、メディアの姿勢ですが、放射能不安を強調し、自分でつくったタブーは避け、気楽な便乗報道で正義の味方のような顔をしているところが気に食わない。一見、善意という名の石で敷き詰められた道の行き先は地獄ということにならぬよう、受け手の側の自立あるいは自律が求められるところです。

▼弥生から卯月と春めいてきて、自分たちで元気を、明るい話題を作り出していくことが求められています。いわきのフラガールたち、東京スカイツリーの人気、新装東京駅の威容、日本の若者たちの活躍など、明るい話はたくさんあります。ありますが、殺人事件をはじめとした暗いニュースばかり、それもそこまで何も思うくらい大きくメディアは報じています。犯罪事件は原則ベタ記事という新聞があるといいいのですが。

▼経済事件にしてもエルピーダ倒産とかA-I-Jの年金資金消失とか、暗いニュースのオンパレード。これは発表ものに頼っているメディアの宿命でしょう。明るい話題は、基本的に自分の足で探さないと出てきませんから、今のメディアにそんな余裕も意欲もない以上、望むのはムリな相談です。ときどきデスクから「何か明るいネタないか」と言われて、美談を探し出してニュースに仕立てるくらいが関の山でしょう。

▼そんな中、東京スカイツリーは人気過熱という感じですが、5月開業へカウントダウンとなりました。私も工事中の現場を見せしてもらいましたが、上からの展望もさることながら真下から見上げた威容は圧倒的でカメラにもなかなか収まりません。道路に寝転がって撮っている若者までいて、近隣商店街では開業後の交通マヒを今から心配しているようです。少なくともオリンピックまでは主役で行くのでしょうか。

▼経済倶楽部でも3月23日にスカイツリーのデザイン

を担当した澄川喜一・東京芸大名誉教授に講演をお願いしてあります。法隆寺五重塔に用いられている心柱は大地震にも耐える日本人のすばらしい知恵ですが、それを活かして350メートルの高さまで通し免震・制震機能を強化することにしたとか。デザインも見ると、方角によって形が変わるという凝ったもので、狭い敷地に短期間で超々高層のタワーを作った大林組の技術陣も世界に誇るべきものです。634メートルは「武蔵」にちなんだとかで、遊び心も上々です。

▼墨田区といえは関東大震災と東京大空襲で丸焼けになり多くの市民が亡くなったところでは、今回の震災の際には工事の真つ最中でしたけれども、三つの災禍に対する鎮魂の意味合いもあるかと思えます。これ以上のことは当日の講演会、あるいは講演録5月号でお楽しみください。元気の出る若者の話など書くことと思いましたが、スペースがなくなりました。またの機会に触れたいと思います。